

質の高い医薬分業目指す

「薬局管理学研究会」設立へ

薬局業務の改善、再構築を



説明する石塚氏

「日本薬局管理学研究会」が構想され、設立に向け準備が進められている。

薬局・薬剤師を全般的に捉え、薬局業務の改善や研究開発を通じて、薬剤師の資質向上、医薬分業のさらなる発展を目指すことが狙い。

来年には第1回

研究会を開催する計画だ。

5日に開かれた第22回望星研究発表会で明らかにされた。

母体となるのは、望星薬局（本社神奈川県、代表取締役石塚英夫氏）が主体となつて運営してきた「望星研究発表会」である。

望星研究発表会は、医薬

分業の進展を図るには処方せんを受け皿となる薬局・薬剤師のレベルアップが不可欠との認識に立ち、薬局現場の研究、業務改善に向けた様々な工夫、システム開発などを報告し合う場として、分業がまだ黎明期にあつた22年前に発足した。

分業の進展に伴つて研究発表会も発展を遂げ、現在では毎年1回開催される発表会には薬局・病院の薬剤師をはじめ、薬科大学、製薬企業、医薬品卸など、関係者500人余が参加するまでに成長した。

その分業率も今や50%を突破し、医療システムとし

て定着、成熟の時期を迎えてつある。しかし、国民や他の医療関係者からは、分業の現状に対して厳しい視線も注がれている。そこで望星薬局は、薬局業務の評価と再構築が必要との観点から、より多くの薬局薬剤師が参加して研究発表・討論を行うため、望星研究発表会を発展的に解消し、薬局管理学研究会を立ち上げることにしたもの。

設立される研究会は、①薬剤師のスキル向上を図るための教育研修②薬剤師の活動・業務内容を多くの薬局・薬剤師が共有し合うと同時に、国民や医療関係者

に公開③薬局の機能評価と、国民の健康を確保するための新たな研究開発——などを目指していく。

一方、望星薬局以外にも、▽ナカジマ薬局（北海道、中島久司氏）▽八王子薬剤センター（東京、茂木徹氏）▽谷山会営業局（鹿児島、原留淳一氏）——が同様の研究会をそれぞれ独自に主催している。

望星薬局はこれらの薬局に対しても、薬局管理学研究会への参加を要請していく構えである。了解が得られれば、大型保険薬局が実施している研究会の糾合が実現する。